

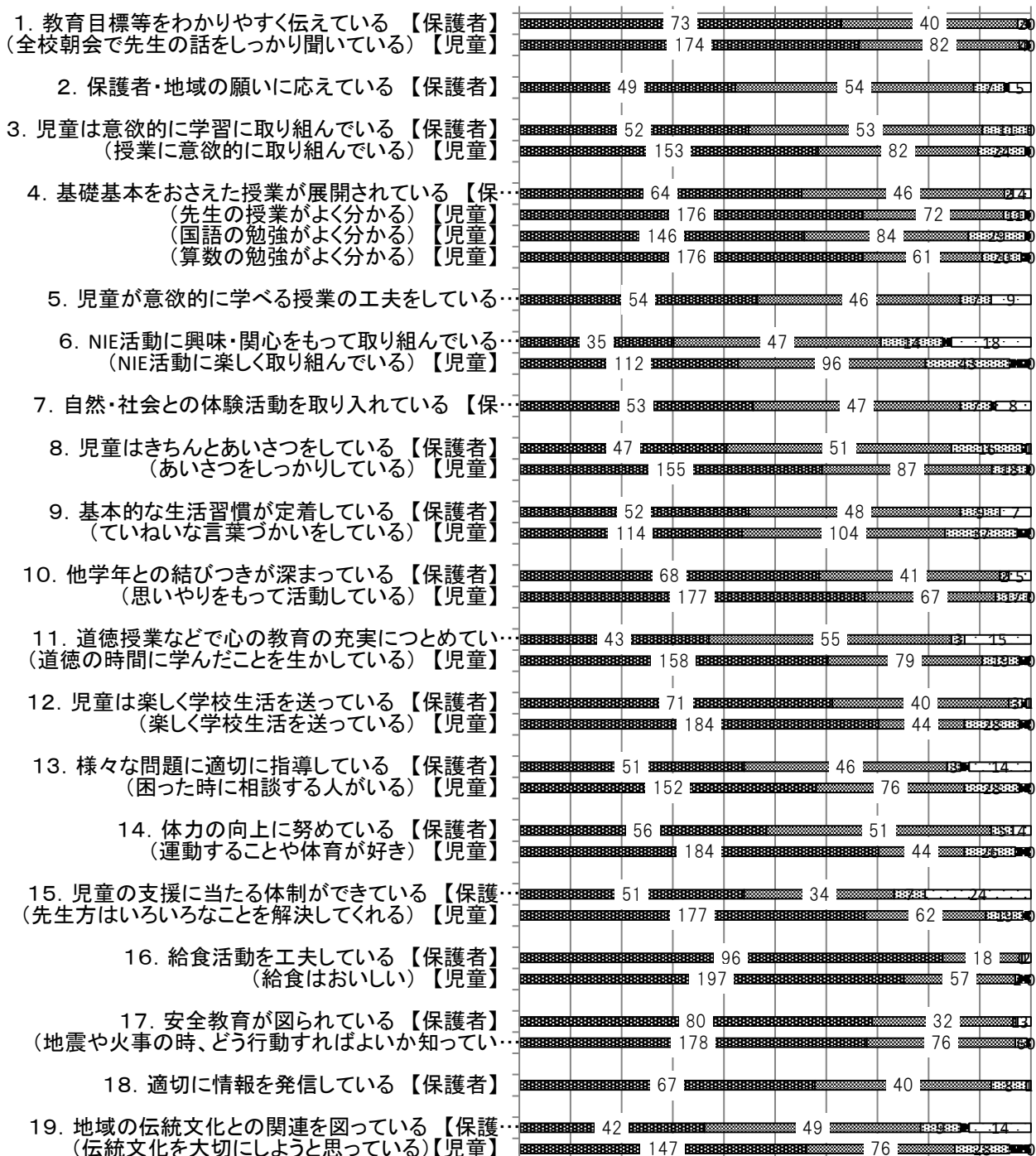
令和4年度 学校評価について

北区立王子第二小学校
校長 江口 千穂

多くの保護者の皆様に学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。
学校教育目標の達成に向けて日々取り組んでおります。書く内容の達成状況について、児童・保護者の皆様のアンケート結果と考察、いただいた質問やご要望への改善等についてご報告いたします。

令和4年度 学校評価アンケート集計

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■十分当てはまる ■まあ当てはまる ■あまり当てはまらない ■全く当てはまらない □よくわからない

【全体として】

保護者の皆様に回答をいただいた評価の「十分当てはまる」と「まあ当てはまる」の肯定的な回答の割合が各質問項目において、概ね80%を超えています。

6「NIE活動」に関しては昨年度と同じ71%でした。わからないという回答も16%と多いので、保護者の皆様へ活動の様子を発信していくと同時に、児童が楽しく取り組める活動を工夫していきます。8「児童のあいさつ」については昨年度よりも4ポイント増加し84%でした。92%の児童があいさつをしていると回答しており、毎年割合が上昇しています。自由意見でも特に高学年のあいさつに対して高評価をいただいております。児童のあいさつの習慣が身に付いてきて、それが下級生のあいさつの習慣により影響を与えていると思われまます。10「他学年との結びつき」については肯定的な回答が昨年度よりも10ポイント高く94%でした。コロナ禍でも工夫しながら縦割り活動や遠足などの行事等を行ったり、学習活動の中で交流することを取り入れたりしたことで、休み時間に自然と異学年で遊ぶ様子も見られました。自由意見でも異学年が交流する中での児童の学びや成長があったという意見を複数いただいております。今後も工夫しながら交流活動を計画していきます。14「体力向上」については肯定的な回答が昨年度よりも8ポイント増加し92%でした。体育科の授業研究を行い教員の指導力向上に努めたり、運動委員会による王二オリンピックやなわとび週間などを計画的に行ったりすることで、児童が体を動かす機会を増やすことができました。また自由意見では夏休みのオニザップやコーディネーショントレーニングについて、親子で楽しく体を動かすよい機会になったと高評価をいただきました。15「児童の支援に当たる体制」については、73%が肯定的な回答となり昨年度よりも7ポイント減少しています。保護者の21%がよくわからないと回答していることや児童の91%が「教師が解決してくれる」と回答していることから、今後はより一層の支援体制を整えていくとともに保護者の皆様との情報共有に努めてまいります。

【自由意見より】※内容を一部抜粋して掲載しております。

保護者の皆様からご意見を多数お寄せいただきました。学校への期待や励ましの声もたくさん頂戴しました。

学校生活全般について

- 子どもが毎日、学習、行事、友だちとの関わりにとっても意欲的に登校し、下校後の宿題や学校での生活も心身ともに疲れすぎることなく、下校後の生活も充実した生活が送れている。
- 子どものいいところを見つけて伸ばしてくださる指導に感謝している。
- 子どもの発言内容が先生の質問の意図と少し違っていても、いつもうまくフォローしてくれるので、子どもたちが間違いを恐れずに発言できていると感じる。これからも、温かく見守り、やる気を導き出してほしい。

学習について

- 様々な活動を通して、友人と協力して作り上げることの喜びを学び、幅広い分野の学習を通して、総合的に考え、想像する力を育んでいる。
- 生活科の時間に屋外で生き物の観察をしたり、野菜を育てて持ち帰り食べたり、近くの公園に行き自然と触れ合うなど楽しく体験できている。

行事・特色ある教育活動等について

- 学校公開、各種の情報発信により、学校での様子も身近に感じられる。
- NIE活動では、今後子ども自身の成長発達と共に生きてくると思う。
- 縦割りの活動のおかげで異学年の知り合いも多く、1人っ子の子どもの社会性なども育まれている。
- 給食は毎日驚くほど凝ったメニューを考え、美味しく作ってくれて感謝している。定期的に世界の料理が出ていて、食べ物を通して自然と世界を意識させる教育は新鮮で素晴らしい。

- 韓国交流の授業（3年）で他の国とのコミュニケーションのとり方、言語、あいさつ編（韓国語）文化の違い、習慣、食事編など興味をもてた。これから先、日韓の文化交流にまた違う国も興味をもつよいきっかけになった。
- コーディネーショントレーニングの取組や夏休みのオニザップのチャレンジなど親子と一緒に出来るコミュニケーションの1つになった。
- ICTについて、NHK for school の図鑑等を活用し自由に調べる事で学ぶ楽しさが膨らんでいる。
- Meet での授業の参加ができるようになったのは嬉しい。子どもにとって、学校が安心できる場所であり続けることに感謝している。
- コロナ禍で制限が多い中、縮小してでも工夫して学校行事を行い児童の経験や体験の機会を作っている。

今後の教育活動についてもご意見を頂戴しました。改善点等を校内で検討し、よりより教育活動を充実させてまいります。

学習について

- 英語教育に力を入れてほしい。簡単な日常会話はできるくらいになると、おもてなしのできる国際人として、最低限のことはできると期待している。
 - 英語活動、英語の時間においては、ゲームやチャンツ、歌や活動を通して、英語でのコミュニケーションに必要な言葉やスキルを学習しています。実際に学習した言葉やスキルを使って友だち同士、子どもとALT、子どもと担任でコミュニケーションをとる活動にも取り組んでいます。さらに、高学年では、アルファベットを練習したり、簡単な言葉をアルファベットで書いたりする活動にも取り組んでいます。
- 学力フォローアップ教室の意義や参加要件について明確にしてほしい。
 - 区の施策に基づき、放課後の補修教室として実施しています。参加児童については担任が個別に相談し、保護者了承の上学習を進めています。年度途中からでも必要に応じて参加を認める場合もあります。

教員の指導について

- 「おまえ」や「あいつ」という言葉を使っている教員がいると子どもから聞いた。
 - 教師が感情的になって言葉遣いが荒くなった場面がありました。お詫び申しあげます。感情的にならないよう、また、言葉遣いに気をつけて指導していくよう職員で共通理解をしました。
- 担任による学級の雰囲気の違いについて
 - 子ども達と同様担任にも個性があります。クラスによって雰囲気が変わってくることもあります。ただ、授業の進め方、クラスのまとめ方等については、常に学年の中で打合せを密にし、相談しあっています。子ども達の学びを豊かにしていくために、一部教科担任制や授業交換等も進めております。ご理解いただくと幸いです。

ICTの活用について

- 北区内の他校と比較しICTの活用に遅れがあるように感じている。ICTを活用していくことで情報の見逃しが減り、負担が軽減していくのでは。
 - ICTの活用は、子どもたちの発達段階に応じて取り組んでいます。きたコンのロイロノートを使って単元の学習の最後に新聞を作ってまとめたり、みんなの考えをPC上で共有したり、英語の学習で取り組んだことをグーグルスライドで発表し合ったり、クラスの係ごとにクラスの友だちにアンケートをとったりしています。まなびポケットを活用して、毎日の連絡をしているクラスもあります。学習のどの場面で活用するのがよいのか、教員同士で情報交換をしながら取り組んでいます。

職員の働き方改革について

○21時すぎても職員室や教室の光が見えるときがあり、教職員の体調が心配。教職員側の余裕が整ってこそいい教育活動ができるのではないと思う。

→ご心配いただきありがとうございます。今後も校務改善につとめ、教職員の働き方、健康にも留意し、子ども達のためによりよい教育活動が展開できるよう努めてまいります。

登校班について

○登校班について見直してほしい。保護者の負担が大きい。仕事の関係で朝送ることができず、同じ班の方に迷惑をかけていて申し訳ない。

○集団登校は親からすると大変ありがたい仕組み。

→登校班について 保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。王二小の子ども達が安全に登校できるのも保護者やオヤジ会のみなさんのおかげです。登校班のあり方等については、今後 PTA 運営委員会でも検討してまいります。

学校からの情報発信について

○アンケートの回答や参加、不参加の回答、学校からのおたより等、電子化を進めてほしい。

→昨年度から、学校評価を web 化しました。欠席の連絡は今年度末の3月からスマホ等でできるよう準備をしています。正式には来年度4月からの実施を予定しております。学校便り、学年便り等の web 化をしている学校があるのは承知していますが、本校で検討した結果、次年度については現状のままで考えております。なお、学校だよりや給食献立表は本校 HP に掲載しております。

○迅速な情報発信、プール中止等の連絡について

→夏季休業中の水泳は、朝、雨が降っていてもやみ水泳が実施できることも、その逆もあります。できるだけプールに入れてあげたいと考え、実施の可否は1日の3回の水泳指導のたびに、気温、水温等を計測して行っています。そのため、タイミングによっては子どもたちは家を出てしまっています。また、メール配信をしても子どもたちに伝わるのが遅くなってしまうこともあります。迅速な情報発信につとめ、まなびポケット等の活用も検討してまいります。

電話対応について

○休み等の連絡をする際、電話に出た教員が名乗らず、事柄が伝わるのか不安

→電話の応対について、保護者の方が不安を感じないように、今後「王二小（担当）〇〇です。」と丁寧に対応できるよう共通理解を図りました。

学芸会について

○台詞の量や出番に差があった。協調性でなく主体性を大事にした方がいいのではないか。

→王二小では学芸会とその練習を「表現」の学習の場ととらえています。喜びや悲しみ、怒りや心の葛藤を、話し方、顔の表情、声の抑揚、声の大小、身体全部を使ってどのように表現していけるかを、教師が一方的に教えたり押しついたりするのではなく、子ども達が主体となって考えました。最初のうちは難しかったようですが、だんだんとおもしろくなってきたようで、「ここは、もっとこうするといいんじゃない?!」「こういうふうにしたらどうかな」という声が出てくるようになりました。残念ながらマスクをしたままだったので、顔の表情はほとんどわかりませんでしたが、その分、身体全部を使って表現を工夫していました。セリフの多少にかかわらず、それぞれの学年全員で作った劇です。セリフの少ない子どもも、その分裏方で活躍するなど多くを学ぶことができたと思っています。